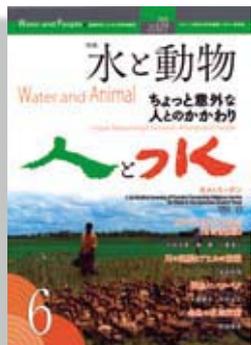


人間文化研究機構のなかの地球研

地球研は、国立大学法人法に基づき、2004（平成16）年4月1日に設置された大学共同利用機関法人人間文化研究機構（地球研のほか、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、以下、機構）の一員となりました。地球研としての独自の研究を推進する一方、機構の進める連携研究、研究資源共有化推進事業、地域研究推進事業等の新規事業に加えて、公開講演会・シンポジウムなど、同機構主催の諸事業や共同利用活動に積極的に関わっています。とくに、連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」の一翼を担う「湿潤アジアにおける『人と水』の統合的研究」を地球研が中核機関として進めています。また、機構による地域研究推進事業「現代中国地域研究」の一拠点として、「中国環境問題研究拠点」の研究活動を進めています。

人文社会系の研究機関を中心とする機構のなかで、地球研は自然系アプローチを含む統合的な地球環境学の研究を人間文化の問題として位置づけ、多様な共同研究・共同利用を行なう機関として大きな可能性を秘めています。

● 連携研究「湿潤アジアにおける『人と水』の統合的研究」



人間文化研究機構の連携研究「人と水」の研究連絡誌『人と水』。これまで0号～6号を発刊。テーマ別の特集を企画し研究成果の発信と共有化を進めています

本研究は、人間文化研究機構の連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」のなかで、「湿潤アジアにおける『人と水』の統合的研究」（通称、「人と水」研究）をテーマとして行うものです。「人と水」研究では、水の恩恵と災禍を歴史的に経験してきたモンスーン気候下の湿潤アジア地域をとりあげています。人類諸集団と水との関わりから生み出されてきた多様な歴史・民族・民俗・生態・思想についての統合的な研究を実施し、日本を含むユーラシア世界における「人と水」の関わりについての人類史的意義を明らかにすることを研究の大きな目的としています。

この連携研究には、地球研のほか人間文化研究機構に属する4つの機関の研究教育職員や、全国の国公立大学の教員が共同研究者として参加しています。これまで、日本国内各地やアジアのメコン河、ガンジス河、インダス河流域で調査研究を実施してきました。

2004（平成16）年4月に開始し、共同研究会、連携塾（一般市民を対象とした半年で6回連続の公開講義）および国内でのシンポジウム（地球研、東京都、愛媛県西条市、山形県遊佐町）を定期的に開催してきました。また、ユネスコ主催の世界水フォーラム（第4回メキシコシティ、第5回イスタンブール）に参加し、水と文化多様性に関する研究の重要性を提案してきました。最終年度となる本年度には成果出版を多面的に進めます。

2009年3月にトルコのイスタンブールにおいて開催された第5回世界水フォーラムに参加。連携研究「人と水」では西条市とともに「水と文化」に関するセッションに参加し、日本パビリオンにおいてパネル展示も行いました



西条市役所近くにある「うちぬき」での試料調査。愛媛県西条市民の生活を支える湧水を、市役所職員、地球研研究者、大学教員・院生が連携して研究しています

● 中国環境問題研究拠点



『中国の水環境問題—開発のもたらす水不足』中尾正義・銭新・鄭躍軍編 第2回国際シンポジウムの成果を元に、開発の裏で進行する中国の水問題の実態を明らかにしました



中国環境問題研究拠点のニュースレター『天地人』。これまで0～5号を発刊

総合地球環境学研究所（地球研）中国環境問題研究拠点は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の地域研究推進事業「現代中国地域研究」の一環として、全国6つの大学や研究所に設置された研究組織の1つです。現代中国地域研究は、日本における現代中国研究のレベルアップ、学術研究機関間のネットワークの形成、次世代の研究者養成を目的として、地球研の他に早稲田大学、慶應義塾大学、東京大学、(財)東洋文庫、京都大学に設置されています。

地球研では地球環境問題の解決に資する複数の研究プロジェクトが中国各地域で実施されています。この研究拠点では、これら地球研の研究プロジェクトの成果を土台に「開発による文化・社会の変容」という視点で、中国の環境問題を自然・人間文化の両面にわたって相対的に捉えようとしています。具体的には毎年中国環境問題に関わる異なるテーマを設定し、各種研究会やフォーラム、国際シンポジウムを開催しています。2007年度は、「水」、2008年度は「食と農」をテーマとしました。今後も「都市と農村」、「文化の多様性」などをテーマとしていく予定です。また国際シンポジウム開催やニュースレター「天地人」の発行を通して、中国各地における経済開発にともなう環境問題の実態と対策に関わる本研究拠点での成果を発信するとともに、国内外の中国環境問題に関わる研究ネットワークの形成をはかっています。

2008年11月には、第3回となる国際シンポジウムを「日本と中国における食と環境」をテーマに江蘇省農業科学院と連携して中国南京市で開催しました。また2007年11月に「社会開発と水資源・水環境問題」をテーマに開催した第2回国際シンポジウムをもとにした『中国の水環境問題—開発のもたらす水不足』が2009年2月に勉誠出版より刊行されました。本書は中国語でも河海大学出版会より同時に発刊されました。

〈<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/>〉

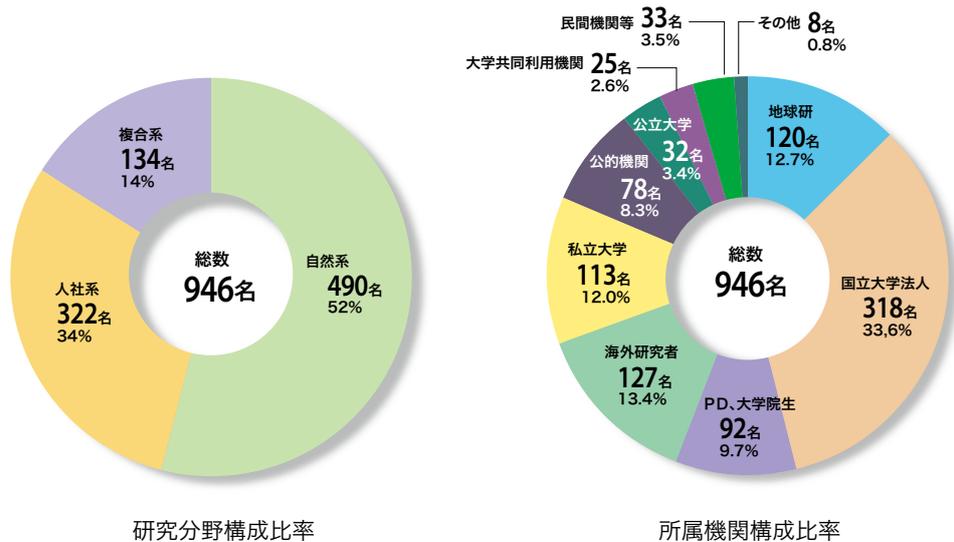


2008年11月に江蘇省農業科学院（中国南京市）で開催された国際シンポジウム「日本と中国における食と環境」

共同研究

● 共同研究者の構成比率

地球研は大学共同利用機関として、地球環境学に関わる多くの分野・領域を横断する総合的な共同研究を推進するため、我が国の大学をはじめ、各省庁、地方公共団体（公的機関）や民間の研究機関、さらには海外の研究機関と密接な連携を図っています。



(2008年5月1日現在)

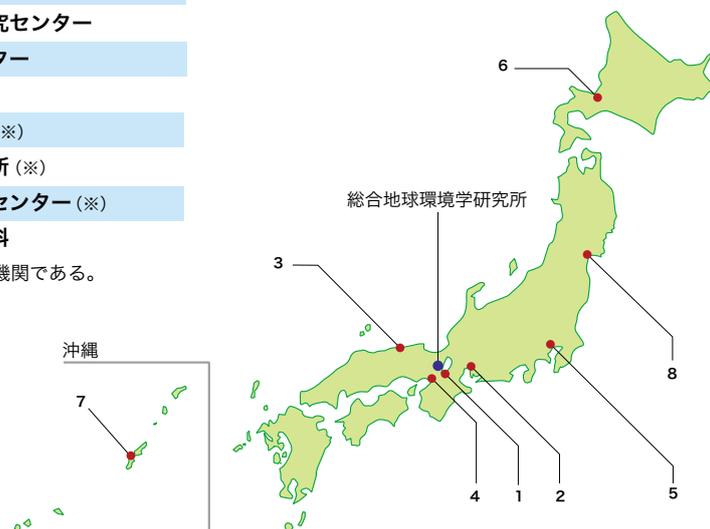
● 国内の連携研究機関

地球研では、第Ⅰ期中期目標・中期計画期間においては以下に示す全国8つの大学研究機関などと連携を図って研究を進めてきました。これら8つの研究機関からは、協定に基づき複数の教員が期間を定めて地球研の研究教育職員として就任しました。今後も、より多くの大学や研究機関と積極的に連携を深めていきます。

連携研究機関

1. 京大大学生態学研究センター
2. 名古屋大学地球水循環研究センター
3. 鳥取大学乾燥地研究センター
4. 国立民族学博物館 (※)
5. 東京大学生産技術研究所 (※)
6. 北海道大学低温科学研究所 (※)
7. 琉球大学熱帯生物圏研究センター (※)
8. 東北大学大学院理学研究科

(※)は流動定数による連携研究機関である。



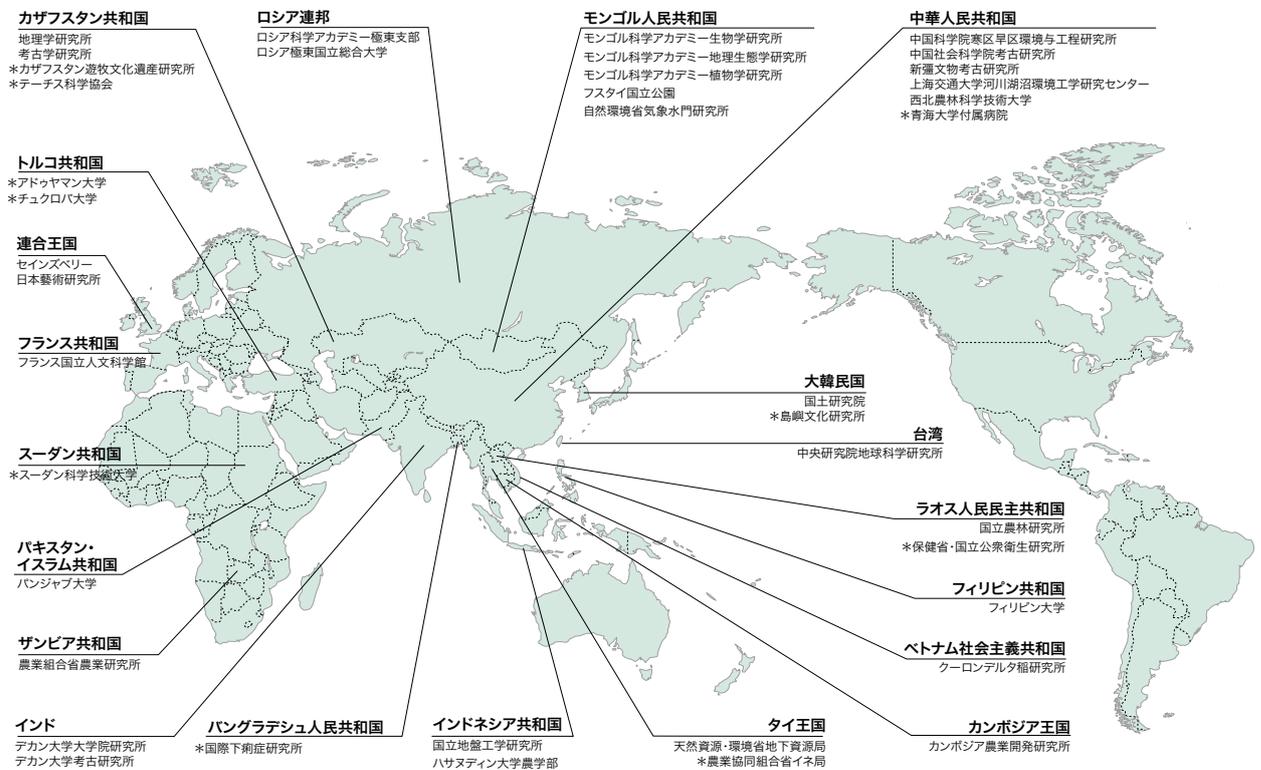
● 海外の連携研究機関

地球研では、世界各国の研究機関・研究所などとの間で積極的に覚書及び研究協力協定を結び、共同研究の推進、研究資料の共有化、人的交流などを進めています。また、海外の研究者との連携をさらに密にするため、招へい外国人研究員として各国から多数の著名な研究者を招いています。

なお、2008年度は、中華人民共和国青海大学付属病院、ラオス人民民主共和国保健省・国立公衆衛生研究所など海外の研究機関と11の覚書または研究協力協定を締結しました。

*は2008年度に覚書を締結した研究機関

覚書及び研究協力協定の締結（2009年4月1日現在）



中華人民共和国 青海大学付属病院との覚書締結（2008年4月）



トルコ・チュクロバ大学との覚書締結（2009年3月）

研究成果の発信

● 地球研国際シンポジウム

地球研の設立主旨や理念を世界に発信することを目的として、国内外の学術コミュニティを対象に年1回開催しています。その年度に終了する研究プロジェクトの研究発表を中心に、最新の研究活動や海外諸国の地球環境研究の現状を紹介しています。

これまでの開催実績

回数	タイトル	開催日	場所
第1回	水と人間生活	2006年11月 6日- 8日	国立京都国際会館
第2回	緑のアジア—その過去、現在、未来	2007年10月30日-31日	メルパルク京都
第3回	島の未来可能性:固有性と脆弱性を越えて	2008年10月22日-23日	総合地球環境学研究所講演室
第4回	境界のジレンマ—新しい流域の概念	2009年10月20日-22日	総合地球環境学研究所講演室(予定)

● 地球研フォーラム

地球研の理念や研究成果に基づいて、地球環境問題について幅広い提起やディスカッションを行うことを目的としています。フォーラム形式にて年1回開催。2004年からは広く市民の理解に供するために、その成果を『地球研叢書』として刊行しています。

(地球研叢書については65ページを参照)



第7回地球研フォーラム「もうひとつの地球環境問題—会うことのない人たちとともに」

これまでの開催実績

回数	タイトル/開催日(場所:国立京都国際会館)	
第1回	地球環境学の課題—統合理解への道	2002年5月17日
第2回	地球温暖化—自然と文化	2003年6月13日
第3回	もし生き物が減っていくと—生物多様性をどう考える	2004年7月10日
第4回	断ち切られる水	2005年7月 9日
第5回	森は誰のものか?	2006年7月 8日
第6回	地球環境問題としての「食」	2007年7月 7日
第7回	もうひとつの地球環境問題—会うことのない人たちとともに	2008年7月 5日
第8回	エコヘルス—健康によい環境を考える(仮題)	2009年7月 5日

● 地球研市民セミナー

地球研の研究成果を分かりやすく一般市民に紹介することを目的に、本研究所または京都市内の会場において定期的に開催しています。会場からは熱心な質問が毎回寄せられています。



第30回地球研市民セミナー「里山・里海から SATOYAMA SATOUMI へ」

これまでの開催実績

回数	テーマ	開催日	講演者
第1回	シルクロード地域のロマンと現実	2004年11月 5日	中尾正義(地球研教授)
第2回	琵琶湖の水環境を守るには	2004年12月 3日	谷内茂雄(地球研助教授) 中野孝教(地球研教授)
第3回	亜熱帯の島・西表の自然と暮らし	2005年 2月 4日	高相徳志郎(地球研教授) 古見代志人(祖納公民館長)他
第4回	21世紀をむかえた世界の水問題	2005年 3月 4日	鼎信次郎(地球研助教授)
第5回	地球温暖化、ホント？ウソ？	2005年 4月 1日	早坂忠裕(地球研教授)
第6回	地球温暖化と地域の暮らし・環境——トルコの水と農から	2005年 6月 3日	渡邊紹裕(地球研教授)
第7回	鴨川と黄河～その恵みと災い	2005年 9月 2日	福嶋義宏(地球研教授)
第8回	東南アジアの魚と食	2005年10月 7日	秋道智彌(地球研教授)
第9回	生き物の豊かな森は持続的な社会に必要である	2005年12月 2日	中静 透(地球研教授)
第10回	環境の物語り論——環境の質と環境意識	2006年 2月 3日	吉岡崇仁(地球研助教授)
第11回	アムール川・オホーツク海・知床～巨大魚付林という考え	2006年 3月 3日	白岩孝行(地球研助教授)
第12回	モンスーンアジアからシルクロードへ——ユーラシア環境史事始	2006年 4月14日	佐藤洋一郎(地球研教授)
第13回	どうなる日本の自然？ どうする日本の国土？	2006年 6月 9日	湯本貴和(地球研教授)
第14回	なぜインダス文明は崩壊したのか	2006年 9月22日	長田俊樹(地球研教授)
第15回	大地の下の「地球環境問題」	2006年10月20日	谷口真人(地球研助教授)
第16回	景観は生きている	2006年12月 1日	内山純蔵(地球研助教授)
第17回	病気もいろいろ～人の医者、環境の医者	2007年 3月 9日	川端善一郎(地球研教授) 奥宮清人(地球研助教授)
第18回	シルクロード～人と自然のせめぎあい	2007年 4月20日	窪田順平(地球研准教授)
第19回	途上国農村のレジリアンスを考える	2007年 5月25日	梅津千恵子(地球研准教授)
第20回	鎮守の森は原始の照葉樹林の生き残りか？	2007年 9月21日	小椋純一(京都精華大学教授) 湯本貴和(地球研教授)
第21回	京都の世界遺産——上賀茂の杜からのメッセージ	2007年10月12日	村松晃男(上賀茂神社権禰宣) 秋道智彌(地球研副所長・教授)
第22回	生き物にとって自然の森だけが大切なのか？——熱帯と温帯の里山	2007年11月 9日	阿部健一(京都大学准教授) 市川昌広(地球研准教授)
第23回	地域・地球の環境——市民の役割・研究者の責任	2008年 2月15日	石田紀郎(京都学園大学教授) 渡邊紹裕(地球研教授)
第24回	黄河と華北平原の歴史	2008年 3月14日	木下鉄矢(地球研教授) 福嶋義宏(地球研教授)
第25回	マレーシア熱帯林とモンゴル草原の大自然と環境破壊	2008年 4月18日	酒井章子(地球研准教授) 藤田 昇(京大大学生態学研究センター助教) 山村則男(地球研教授)
第26回	地球環境の変化と健康——人々のライフスタイルを変えるには	2008年 5月16日	門司和彦(地球研教授) 奥宮清人(地球研准教授)
第27回	捕鯨論争——21世紀における人間と野生生物の関わりを考える	2008年 9月19日	星川 淳(グリーンピース・ジャパン事務局長) 秋道智彌(地球研副所長・教授)
第28回	年輪年代学——過去から未来へ	2008年10月17日	光谷拓実(地球研客員教授) 佐藤洋一郎(地球研教授)
第29回	厳寒のシベリアに暮らす人々と温暖化	2008年11月21日	井上 元(地球研教授) 高倉浩樹(東北大学東北アジア研究センター准教授)
第30回	里山・里海から SATOYAMA SATOUMI へ	2009年 1月23日	あん・まくどなど (国連大学高等研究所、いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長) 阿部健一(地球研教授)
第31回	南極から地球環境がよく見える	2009年 3月13日	中尾正義(人間文化研究機構理事) 齋藤清明(地球研教授) 白岩孝行(地球研准教授)



第5回地球研地域セミナー「やんばるに生きる——自然・文化・景観のゆたかさを育む地域と観光」。沖縄県国頭村での講演会(左)とムラ歩き体験(右)

● 地球研地域セミナー

地球研の研究成果を社会に還元することを目的に、日本各地において年1回程度開催しています。地球研の研究スタッフと地域の有識者が会し、その地域と文化に関わる様々な問題について地域の人々とともに考え活発な議論を行っています。

これまでの開催実績

回数	タイトル	開催日	場所	出演者
第1回	雪と人 ——暮らしをささえる日本海	2005年9月17日	富山県富山市	中井精一(富山大学助教授) 張 勤(富山大学助教授) 佐藤 卓(富山県立上市高等学校教諭) 秋道智彌(地球研教授) 内山純蔵(地球研助教授) 佐藤洋一郎(地球研教授) 早坂忠裕(地球研教授)
第2回	火山と水と食：鹿児島を語る！	2006年9月18日	鹿児島県 鹿児島市	平田登基男(鹿児島工業高等専門学校教授) 浜本奈鼓(NPO法人くすの木自然館専務理事) 川野和昭(鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課長) 秋道智彌(地球研教授) 佐藤洋一郎(地球研教授) 中野孝教(地球研教授)
第3回	伊豆の、花と海。 ——伊東から考える地球環境	2007年9月15日	静岡県伊東市	佐野藤右衛門(財日本さくらの会副会長) 川勝平太(静岡文化芸術大学学長) 西垣 克(静岡県立大学学長) 秋道智彌(地球研副所長・教授) 佐藤洋一郎(地球研教授) 湯本貴和(地球研教授)
第4回	災害と「しのぎの技」 ——池島・福万寺遺跡が語る 農業と環境の関係史	2008年11月8日	大阪府和泉市	井上智博(大阪府文化財センター副主査) 大庭重信(大阪府文化財協会文化財研究部学芸員) 宇田津徹朗(宮崎大学附属農業博物館准教授) 藤井伸二(人間環境大学准教授) 木村栄美(地球研研究員) 田中克典(地球研研究員) 佐藤洋一郎(地球研副所長・教授) 阿部健一(地球研教授)
第5回	やんばるに生きる ——自然・文化・景観の ゆたかさを育む 地域と観光	2009年2月13日 2009年2月14日	沖縄県名護市 沖縄県国頭村	立本成文(地球研所長) 湯本貴和(地球研教授) 仲原弘哲(今帰仁村歴史文化センター館長) 水嶋 智(観光庁観光資源課長) 井上典子(文化庁文化財調査官) 早石周平(琉球大学非常勤講師) 安溪遊地(山口県立大学教授) 久高将和(NPO法人国頭ツーリズム協会顧問) 島袋正敏(やんばるものづくり塾塾長) 花井正光(琉球大学教授)

● 研究プロジェクト発表会

すべての研究プロジェクトの進捗内容や計画について、プロジェクトリーダーが発表を行い、地球研の研究スタッフに加えて事務職員や所外の共同研究者も参加する全体討議の場となっています。3日にわたるこの発表会にはのべ500人以上が参加しており、こうした全所的な取り組みと活発な意見交換は地球研における自己点検評価につながる重要な活動の1つとなっています。

2008年6月に開催した「山川草木の思想シンポジウム」



● その他

地球研では、その他に次のようなイベントを開催し、「地球環境学」の構築へ向けて幅広く議論を行っています。

■ 知恵と文化の京都環境フォーラム

地球温暖化をはじめとする環境問題が深刻化する中で、暮らしや経済のあり方を見つめ直し、持続可能な社会を形成するため、本フォーラムでは長い歴史と豊かな自然に培われた京都の知恵と文化を生かした新たな生き方や暮らし方を提案します。DO YOU KYOTO? キャンペーンの一環として京都府と共同開催しています。

■ 山川草木の思想シンポジウム

本シンポジウムでは、日本文化や自然思想の立場から地球環境問題を問い直し、人間文化研究機構における新しい人間文化研究の可能性として、日本文化の研究が地球環境問題にいかなる貢献をすることができるかについて提案することを目的としています。

日本文化と地球環境問題、大きく異なる2つの分野の研究を進めている国際日本文化研究センターと地球研が中心となって、地球環境問題の本質について積極的に対話しています。

■ 地球研セミナー

国内・海外の研究機関で地球環境関連の研究を行っている精鋭の研究者を講師として招へいし、地球環境学に関わる最新の話題と研究動向を共有することにより、広い視座から地球環境学を捉えようとするセミナーです。セミナーは所外にも開かれており、所員だけでなく関連分野の研究者も多数参加しています。

2008年度開催実績

回数	タイトル	開催日	講師
第32回	The Evolution of Scientific Research and Science Magazine 科学研究の進展とサイエンス誌	2008年 9月29日	Dr. Barbara R. Jasny, Deputy Editor for Commentary, Science/AAAS
第33回	Satoyama Woodlands in Japan and Outlands in Europe - a historical perspective of traditional farming landscapes 日本とヨーロッパの里山林 —伝統的農村景観の歴史的視座	2008年10月28日	Prof. Björn E. Berglund, Department of Geology/Quaternary Geology, GeoBiosphere Science Centre, Lund University, Sweden
第34回	The Global Precipitation Climatology Centre (GPCC)- Raingauge based precipitation analysis for the land areas of the Earth in support of climate research and water resources management 全球降水量気候学センター(GPCC) —気候研究および水資源管理のための雨量計に基づく陸域降水量解析	2009年 3月16日	Mr. Tobias Fuchs, Director, Global Precipitation Climatology Centre, Germany
第35回	サステイナビリティ学の創出	2009年 3月26日	武内和彦・国際連合大学副学長(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

■ 談話会セミナー

談話会セミナーはお昼ごはんを食べながら行うランチ・セミナーです。地球研では、多様な研究分野に対する相互の理解とともに、地球環境問題という共通テーマに沿った不断の議論を重ねることが求められています。座談会セミナーでは、地球研の若手研究者を演者として、各自の研究バックグラウンドを踏まえつつ、多くの所員にとって共通の話題を提供し、研究者相互の理解と交流を深めることを目的としてほぼ隔週で開催しています。

2008年度開催実績

タイトル	開催日	演者
撤退の農村計画	2008年 5月20日	林 直樹
病院から生活の場へ——フィールド医学の試み	2008年 6月 5日	坂本龍太 小坂康之
過去と現在を結ぶ：考古学の未来可能性	2008年 6月17日	中村 大
地域研究／環境問題研究における土地利用と土地被覆変化研究の位置：現場の環境／社会本位で森林保全を考えるために	2008年 7月 1日	東城文柄
衛星重力ミッション GRACE のデータを用いた陸水変動の研究	2008年 7月16日	山本圭香
日本における喫茶文化の萌芽とその展開	2008年 7月29日	木村栄美
動物資源利用の展開——安定同位体分析による産地同定の視角から	2008年 9月 2日	石丸恵利子
生物学的侵入と感染症	2008年 9月16日	内井喜美子
インドシナ半島における気温逆転層の季節変化	2008年 9月30日	野津雅人
日本の開港場の感染症対策史——ヨコハマはモダンでハイカラなのか？	2008年10月 7日	市川智生
モンゴル国の遊牧における「現金作物」としてのカシミアとその流通	2008年10月29日	前川 愛
Vulnerability と Resilience の複雑な関係	2008年11月 4日	久米 崇
陸と海をつなぐ地下水	2008年11月18日	安元 純
Cubic Module Model を用いた樹木形態進化のシミュレーション	2008年12月 2日	長谷川成明
中央アジア山岳地域における最近の氷河と氷河湖災害の現状	2009年 1月20日	奈良間千之
都市に浮かぶ島 (Heat Island)	2009年 2月 3日	白木洋平
アイスコアってなんやねん？——黄砂と成層圏の物質を探る	2009年 2月17日	安成哲平
洪水堆積物の見分け方	2009年 3月 3日	斎藤 有
楔形文字文献の世界	2009年 3月17日	森 若葉

● 主な受賞・表彰歴

2008年度の実績

内容	表彰・授賞日	表彰・受賞者
日本学士院エジンバラ公賞	2008年 6月 9日	和田英太郎(地球研名誉教授)
農業農村工学会学会賞沢田賞	2008年 8月26日	渡邊紹裕(地球研教授)
水文・水資源学会賞国際賞	2008年 8月28日	福嶋義宏(地球研名誉教授)
毎日出版文化賞	2008年11月 3日	福嶋義宏(地球研名誉教授)
中谷宇吉郎科学奨励賞	2009年 2月16日	安成哲平(地球研研究員)



和田英太郎名誉教授エジンバラ公賞受賞記念講演会

● 刊行物



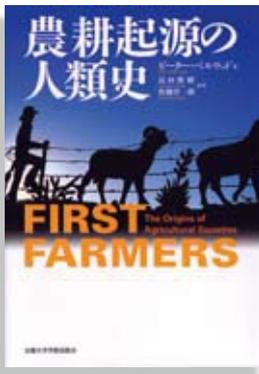
■ 地球研叢書

地球研の研究や成果の意味を学問的に分かりやすく紹介する出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
1 生物多様性はなぜ大切か？	日高敏隆 編	昭和堂	2005年4月
2 中国の環境政策——生態移民	小長谷有紀、シンジルト、中尾正義 編	昭和堂	2005年7月
3 シルクロードの水と緑はどこへ消えたか？	日高敏隆、中尾正義 編	昭和堂	2006年3月
4 森はだれのものか？	日高敏隆、秋道智彌 編	昭和堂	2007年3月
5 黄河断流——中国巨大河川をめぐる環境問題	福嶋義宏 編	昭和堂	2008年1月
6 地球の処方箋——環境問題の根源に迫る	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2008年3月
7 食卓から地球環境がみえる——食と農の持続可能性	湯本貴和 編	昭和堂	2008年3月
8 地球温暖化と農業——地域の食料生産はどうなるのか？	渡邊紹裕 編	昭和堂	2008年3月
9 水と人の未来可能性——しのびよる水危機	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2009年3月

■ 地球研ライブラリー

地球研の研究者らが自らの研究成果を広く紹介する学術出版物です。



タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
1 クスノキと日本人——知られざる古代巨樹信仰	佐藤洋一郎 著	八坂書房	2004年10月
2 世界遺産をシカが喰う	湯本貴和・松田裕之 編	文一総合出版	2006年 3月
3 ヒマラヤと地球温暖化	中尾正義 編	昭和堂	2007年 3月
4 Indus Civilization-Text and Content	長田俊樹 編	Manohar	2007年 3月
5 人はなぜ花を愛でるのか	日高敏隆・白幡洋三郎 編	八坂書房	2007年 3月
6 農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド 著 長田俊樹、佐藤洋一郎 訳	京都大学 学術出版会	2008年 7月

■ 地球研ニュース (Humanity & Nature Newsletter)

地球研とは何か、どのような活動を行なっているのかなどの最新情報を、研究者コミュニティに向けて発信するもので、隔月に発行しています。No.16から内容体裁をリニューアルし、それに合わせて編集室を充実させました。特に地球研に関わっている研究者を対象に、コミュニケーションの場の1つとして機能することを目指しています。

